

2013年年頭挨拶

主イエス・キリストからの恵みと平和が、「信仰年」を過ごしている皆様の上に豊かにありますように！

†【二年間の取り組みに感謝】

福岡教区では、『キリストの救いの秘儀を①知り（信仰生涯学習）、②追体験し（典礼祭儀の充実）、③生き（家庭と社会生活での実践）、④伝える（福音化）』というテーマ

を教区の優先課題として掲げ、その中でも特に、『①キリストの救いの秘儀を知る』ということに焦点を絞りながら、2年間『信仰生涯学習』に励んでまいりました。各小教区や各団体の2年間に渡る具体的な取り組みによって、教会共同体が活性化し、団結力が豊かになった事例や手応えなどが報告されています。教区の目標に誠心誠意励んで下さっている教区民のご尽力に、心からの敬意と感謝を申し上げます。たとえ期待通りの目に見える成果が少なかったとしても、忍耐強い努力の積み重ねは、いつの日にか必ず教会共同体の将来に神のみ業としての実りをもたらすと確信しています。

†【信仰年の取り組み中で】

さて、私たちはベネディクト十六世教皇様が指導して下さった『信仰年』を昨年10月11日から歩み始めています。この歩みは、福岡教区が優先課題として取り組んできた2年間の歩みと同じ課題であり、教皇様のご指導に感謝しながら、そのご意向に沿うような「信仰年」にしたいと思えます。つまり、今年も『①キリストの救いの秘儀を知り、学ぶ』ための『信仰生涯学習の第3年目』の取り組みに励みたいと思えます。特に今年は教皇様と心を合わせて、「信仰年」に関する教皇庁教理省の通達と日本カトリック司教協議会の指針を尊重しながら、各小教区や各団体に具体的な実践に励んで下さるようお願いいたします。

†【教皇の心を受け止めて】

教皇様は自発教令『信仰の門』の中で、「『信仰年』とは、私たちがキリストと出会う喜びや新たな熱意を周囲に明示するために『信仰の道を再発見する』（2番）ことであり、キリストの死と復活によって示された『神の完全な愛を日々再発見する』ことでもある」（6番）と説明しています。それは、救い主に対する誠実で新たな回心への招きであり、新しいいのちへの促しでもあります。つまり、キリストの愛を再発見できる人は元気とやる気と勇気が与えられ、また愛されていることを実感できる人は尽きることのない力と活力に満たされて、「新しいいのち」に変容します。人間の考えと感情、思いと行いがゆっくりと清められ、造り変えられ、人間の全存在が復活の新しい姿に形作られるからです（7番）。愛が与えられたことを体験として生きることが信仰であり、その信仰はその人を豊かにし、成長させ、恵みと喜びの体験へと変えていきます。人の心を揺り動かし、駆り立てるキリストの愛は、人の心を希望のうちに広げ、周囲の人へ

の優しさと労わりに変えていき、周囲の人に共感を生み出していきます。それは「証し」となっていくます。神から来る愛は絶えず増大し、信じる人を成長させ、強めていきます。教皇様は、「信仰年」を通してこのような信仰の賜物を再発見し、実り豊かに受け止め、祝って欲しいのです。それは激動する社会情勢の中で、キリストを信じる総ての人が一層自覚を持って福音に従うために、変わる事のない信仰の内容をより良く知り、生き、伝えるためなのです（8—9番）。

†【世界代表司教会議（シノドス）の勧め】

教皇様は、「信仰年」の開催に合わせて昨年10月に世界代表司教会議（シノドス）を招集しました。テーマは「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」であり、信仰について特別に考察して再発見をすることが目的でした。シノドス総会の最終日に「最終メッセージ」が承認されましたが、それを出来るだけ早く各国の言葉に翻訳してキリスト信者に伝えるように議長から依頼されました（全文は中央協議会ホームページに掲載）。一部分だけを紹介します。

「福音宣教への招きは、回心への呼びかけでもあります。私たちは、まず自分自身がキリストの力に対して回心すべきだと考えます。キリストだけが万物を新たにすることができますが、何よりもまず私の貧しい存在も新たにすることができますからです。私たちはへりくだって次のことを認めます。イエスの弟子、特にイエスの奉仕者の貧しさと弱さは、宣教を信頼に値するものではなく、逆に重荷にできてしまっています。私たちは第一に私たち司教は、諸民族に福音を告げ知らせなさいという主の崇高な呼びかけと命令に相応しい者ではないことをはっきりと自覚しています。私たちは、歴史のさまざまな傷に対する自分たちの弱さを謙虚に認め、自分の個人的な罪もためらうことなく認めます。しかし、私たちは聖霊によって自分も造り変えられると確信しています。

聖霊は教会を刷新して、その服を輝かせて下さるからです。聖人たちの生涯がこのことを示します。聖人を思い起こし、語ることは、新しい福音宣教の特別な手段です。もし刷新を自分自身の力にゆだねるなら、それはきわめて疑わしいものとなります。むしろ、教会における回心も福音宣教も、その第一の担い手は貧しい私たち人間ではなく、主の霊ご自身です。ここに私たちは力と確信を見いだします。教会においても歴史においても、最後に勝利を収めるのは悪ではないからです。イエスが弟子たちに『心を騒がせるな。おびえるな』（ヨハネ14・27）と言われたとおりです。

新しい福音宣教は、このような落ち着いた確信に基づいて行われます。私たちは聖霊が与える靈感と力に信頼します。聖霊は、どのように困難な時にも、何を話し、何を行うべきかを教えて下さるからです。それゆえ、私たちがなすべきことは、信仰によって恐れに打ち勝ち、希望によって失望に打ち勝ち、愛によって無関心に打ち勝つことです」（最終メッセージ5番）。

†【最後に】

今年も来る11月23日（土）「勤労感謝の日」に「教区の日」として集いますが、同

時に「信仰年」の閉幕式も行う予定です。教区民が司教座聖堂（大名町教会）に集まり、各教会で一年間取り組んだ「信仰年」の歩みを報告し、一年間の活動と営みをミサ聖祭の中で神様に奉納したいと思います。

エリザベトから「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。」と讃美された聖母マリアのお取り次ぎを通して、教会の中に生きておられる主イエス・キリストとの出会いが実現され、交わりが深められ、豊かにされて、その喜びが周囲に伝わる事が出来るように励みましょう。

カトリック福岡教区司教



ドミニコ宮原良治